

a 学校教育目標	「自ら伸びる とともに伸びる 子どもの育成」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 【ビジョン】(自校の将来像)	自分を愛し、夢を語る児童の育成 小中一貫教育で、15の春に【幸崎思考力】を発揮し自律的に学ぶ子どもを育成する学校。そして、保護者・地域に信頼される学校。
----------	------------------------	----------------------	----------------------------------	---

評価計画				自己評価				改善方針		学校関係者評価					
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	達成度	評価	k 結果と課題の分析	n 改善方針	l 評価		m コメント		
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ			
確かな学力	◎学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成 【標準学力調査偏差値平均55以上】	◎学ぶ楽しさを感じ、自律的に学ぶ児童の育成 【標準学力調査偏差値平均55以上】	【授業改善】 ①単元の始めに、児童と共に単元計画表を作成 ②子供たちの自律的な学びを支える学習環境の設定 ③自分の学びを振り返るためのR80の充実 ④STB(幸崎トレジャーBOX→働かせたい見方・考え方)を掲示	単元末テスト	平均得点率 85%以上	82%	82%	96	A	2学期単元末テストの結果 算数科到達率82.3% 「学習集団アンケート(1月)」21項目中、肯定的評価80%以上100%  <成果> 単元計画表の継続 学習環境の設定により、学ぶ楽しさを実感する児童の増加 R80の質的向上を図るため、STBの言葉を活用する児童の増加 職員間でのR80の取組交流 獲得させたい見方・考え方を明確にしたSTBの活用  <課題> 全学級におけるICT活用の日常化と、教科指導での積極的な利用	【授業改善】 ◎①～④の取組を全学級で継続・進化 ◎ICT活用の日常化 ・先進校からの学びを共有化 ・研修を計画的に実施 (教材づくり・具体的な活用方法等)	○	○	平均点を取ることは難しいですが、継続することで結果はついてくると思います。 ICT技能の向上を日常の教育活動の場で生かす場面、みんなの前で使って発表する等の機会を増やすとよいと思います。 見方・考え方にトレジャーBOXの言葉を活用するのは定着していませんね。 学力向上に向けて継続してお願いします。 国語の学力向上にご尽力願います。	
			【個別指導の充実】 ①授業における個別支援の充実 ②基礎学力の定着のため補充学習・幸崎検定テストの実施 ③認知機能強化トレーニング(コグトレ)	児童アンケート	肯定的評価 80%以上	91%	100%	125			標準学力調査の問題傾向を分析し、練習問題を作成・実施→児童一人一人の課題を把握 週に2回、朝の時間にコグトレを実施  <成果> 補充学習における複数教員の配置により、個別支援の充実 児童一人一人の課題を明確にすることで、その子に応じた課題を実施  <課題> 現学年の基礎学力の定着が不十分な児童への対応 全学級1・2回スライド等のプレゼンテーションソフトを使った発表を実施	【個別指導の充実】 ①授業において個人思考の時間での個別支援の充実 ②補充学習において、個の課題を見取り、それを克服するための時間としての活用	○	○	皆が居心地の良い学校に近づいてきていると思います。 ICTを子供たちが使いこなせているのに驚いています。他の子の意見やまとめなどもすぐに見られずし、自分の考えが伝えやすくて良いと感じます。学力に差がある児童にも個別の対応をする時間が、学習に取り組みやすい環境ができていますのではありません。
			【ルールを守り活用できる児童】 ①育成すべき能力を発達段階に応じて具体的な子どもの姿で設定 ②タイピング練習で情報活用能力の基礎力の向上 ③情報モラル教育の充実	マイプレゼンの実施	年3回以上	100%	100%	100	A		<成果> 研修による教職員のICTの活用の技能向上、意欲向上 タイピング練習の継続と共に、三原市のタイピング大会への参加  <課題> 家庭学習でのICT活用の時間の設定 クロームブックの使い方等の情報モラル教育の充実	【ICT活用能力の向上】 ①ICTを活用した家庭学習の実施 ②各学級による情報モラル教育の継続	○	○	
豊かな心	◎認め合い、支え合える集団づくり 【i-check 散佈図I(個人の心の安全)満足群へ】	◎認め合い、支え合える集団づくり 【i-check 散佈図I(個人の心の安全)満足群へ】	【PDCAサイクルと振り返り】 ①学級チャレンジ……学級目標の設定と評価活動、学級チャレンジと学校チャレンジを関連付け ②共感的な学び合いを実践し、認め合い感謝する仲間づくり ④特別支援の視点を経営に取り入れ、個に応じた指導を充実	i-check 散佈図I(個人の心の安全)	A・B領域の児童 80%以上	90%	85%	106	A	認め合い支え合える集団づくり i-check 散佈図I(個人の心の安全)A・B領域の児童80%以上全校平均85% 児童アンケートによる肯定的評価97% <成果> i-checkの調査結果分析に基づき、定期的な面談や児童観察による個への支援の取組 毎日の挨拶運動やクリーン活動等、自治的な児童会活動 児童が主体となって実施した「頑張ったね会」の取組 縦割り班での掃除活動による支え合う集団づくり ポジティブ行動支援による相手をも認め良さを伸ばす考えの浸透 <課題> ポジティブ行動支援の取り組みを、授業においても取り組んでいく必要がある。	【誰ひとり取り残されない学校づくり】 ①ポジティブ行動支援の確立 ②多様性の理解と尊重を育む学級経営の充実 ③すべての児童が「学校生活が楽しい」「学びが楽しい」と言える取組	○	○	授業が楽しいと思っている児童が多いことがすごいです。今の状況をより充実してください。授業も他の子と学び合い、教え合う進め方は良いと思います。簡単ではないと思いますが、認め合う心がもてると、今後の人生において必ず素晴らしいことだと思います。 少人数の良さがとても生かされていると思います。みんなが知り合っていて話ができる仲なのでポジティブに活動できるのが安心につながるのだと思います。	
			【縦割り班・異学年活動】 ①幸崎っ子10の姿の共有化 ②幸崎スポーツフェスティバル・幸崎文化フェスティバルの実施 ③児童会や委員会、縦割り班等の自治活動の充実 (縦割り班)縦割り班遠足・清掃(児童会)がんばったね会(年2回)	児童アンケート	肯定的評価80%以上	100%	97%	121			【体力の向上】 ①投動作改善に向けたICT(動画撮影によるフォーム確認)の導入 ②「楽しみながら投げる活動」の継続と、向上できなかった児童への基本動作指導の重点化  【PDCAサイクルの定着】 ③体力ファイルを活用した蓄積・要因分析と、具体的な数値目標の設定 ④委員会と連携した、休み時間に遊び感覚で運動量を確保できる環境づくり		○	○	全国的に子どもの体力低下が進んでいる中で楽しみながら体力をつける方法を実践してください。運動能力の向上は今後も工夫が必要です。身体を動かす工夫があると苦しい児童もできると思います。まずは体力が向上していくことを願います。引き続きよろしくお願います。少しずつの積み重ねで能力が伸びているので体育の前のサーキット運動はこれからも続けてもらえたらと思います。
健やかな体	◎運動に対する意欲の向上 【個人記録の結果向上】	◎楽しみながら体を動かすことで体力を向上させる。 【個人記録の結果向上】	【運動に対する児童の意欲向上】 ①縦割り班を生かしたスポーツフェスティバルやリレーの実施 ②外遊びWEEK等の取組 ③視覚的に自分の目標やゴールが見えるカードの作成と評価	個人記録の結果 ボール投げ 立ち幅跳び	向上した児童の割合90%以上		66%	86	B	楽しみながら体を動かす工夫やICT活用による、運動意欲の向上 <成果> ・重点課題「立ち幅跳び」の全学年平均記録向上および個人更新率87%(4年100%)の達成 ・工夫したサーキット運動による「ボール投げ」の全学年平均記録向上 ・体力ファイルやICT活用(動画確認)による、課題の可視化とPDCAサイクルの定着  <課題> ・「ボール投げ」の個人更新率66%(目標90%未達)の対策 ・苦手意識を持つ児童への個に応じた指導の充実		○	○		
			【コミュニケーション力向上】 ①個性を發揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②心理的安全性を醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生きて働くことができる組織へとさらに成長	時間外勤務時間数	年間平均45時間 以内の職員 100%	100%	100%	100	A		時間外勤務時間数が45時間以内の職員 100% <成果> 定時退校日以外の日の退校時刻18:30 ICTを活用した業務の効率化(日程・行事等の確認・共有) 各部やベア学年での情報の共有 <課題> 在校時間について個人差がみられる。	【来年度に向けた業務改善】 ①各主任を中心とした部の計画的な運営 ②情報の共有化と周知徹底 ③ICTを活用した業務の効率化 ④日課表の見直しによる在校時間の短縮	○	○	
地域に信頼される学校	◎コミュニティスクール・小中一貫による教育活動の充実を図り、郷土を愛する心を養う。 【コミュニティスクール】	◎幸崎の強みを生かした探究的な学習を展開し、自分や友達、郷土を愛する心を養う。 【児童アンケート】	【コミュニティスクールを活用し教育力向上】 ①学校の教育活動を、地域と共に企画・実行することで、地域の方や地域の事に開く機会を創出 ②総合的な学習の時間のカリキュラムマネジメント(地域資源のよりよい活用方法・地域学習の充実)の推進	児童アンケート	自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート項目の肯定的評価 80%以上	97%	95%	118	A	コミュニティスクールを活用した教育力の向上 自分や友達、学校や地域に対する愛着に関するアンケート2項目中、肯定的評価95% <成果> 道徳参観日によるゲストティーチャーの招聘(4、5年) お世話になった方を招待し、地域学習の学びを発表した文化フェスティバル 地域の方への感謝の手紙で、気持ちを表現 <課題> 地域学習を通して学んだことを発信する機会の充実	【地域学習のさらなる充実と郷土愛の醸成】 ①地域学習と他教科の関連性を深め、学びをさらに充実させるためのカリキュラムマネジメント ②学びのアウトプットの充実	○	○	海に関する学習を当社(今治造船)と一緒にできればいいと思っています。 コミュニティスクールの活動を充実させて無理のないように頑張ります。 時間(日課表)の見直しで、ゆとりができて、補充学習もできるのは良いことですね。 地域の方々と触れ合うことは子供たちにとって大きなプラスとなっています。まずは、挨拶を継続していき、さらに親しく触れ合っていくようになればと思います。 コミュニティスクールを通して、地域の方と関わりがもてるので素敵な取り組みだと思います。自分も何かお手伝いできることは、協力していきたいです。	
			【適材適所の人材配置による業務改善】 ①個性を發揮できる職務に就くことで、一人一人のモチベーションを高め、業務を効率化 ②心理的安全性を醸成しチーム力の向上 ③一人一人が生きて働くことができる組織へとさらに成長	時間外勤務時間数	年間平均45時間 以内の職員 100%	100%	100%	100	A		時間外勤務時間数が45時間以内の職員 100% <成果> 定時退校日以外の日の退校時刻18:30 ICTを活用した業務の効率化(日程・行事等の確認・共有) 各部やベア学年での情報の共有 <課題> 在校時間について個人差がみられる。	【来年度に向けた業務改善】 ①各主任を中心とした部の計画的な運営 ②情報の共有化と周知徹底 ③ICTを活用した業務の効率化 ④日課表の見直しによる在校時間の短縮	○	○	